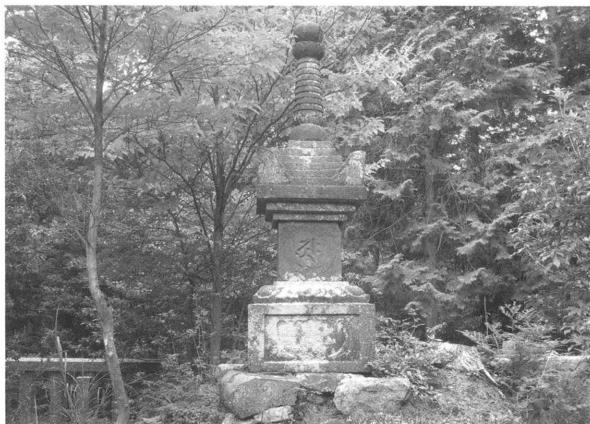


# 国指定史跡 北畠具行墓

**北畠具行**(1290～1332)は、鎌倉時代後期の公卿で、後醍醐天皇の抜擢を受け、嘉暦元年(1326)に参議に、元徳元年(1329)に権中納言に、元弘元年(1331)には従二位に昇進しました。『太平記』には「朝夕拝礼不怠、昼夜ノ勤厚異于也……君ノ恩寵モ深力カリキ」と記されています。

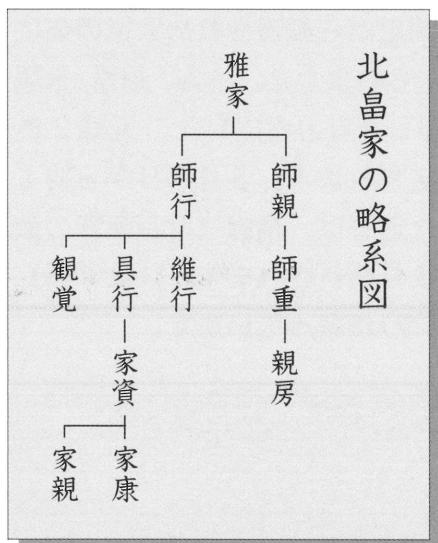
正中の変(1324)で倒幕に失敗した後醍醐天皇は、元弘元年(1331)再び討幕を志し、山城の笠置寺にこもり、幕府軍と戦います(元弘の乱)。緒戦は善戦するものの、関東から派遣された大軍の前に敗れ、天皇は隠岐に流され、具行をはじめ数十名が捕えられて京に送られました。一方、柏原(米原市)に居館を持つ近江守護京極道誉は、鎌倉幕府の御家人として活躍した有力者でした。元弘2年(1332)具行は天皇の重臣として道誉に預けられ、京都から鎌倉に護送されます。5月10日から約1カ月間、別邸がある清瀧寺(清滝)で具行を慰め、その人格に打たれた道誉は、幕府に対し斬罪の赦免交渉をおこないます。しかし、そのかいなく柏原の地で、幕命により斬首されます。『太平記』には「逍遙生死 四十二年 山河一革 天地洞然」の辞世の頌(讃美歌)が載っています。



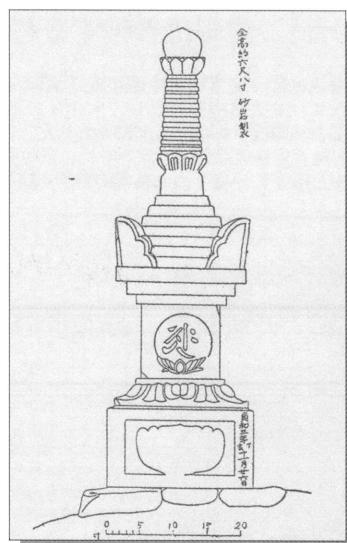


北畠具行宝篋印塔

北畠具行墓は、清瀧寺の南方約700mの円山の猫居坂にあり、総高204mの砂岩製宝篋印塔で、高さが約80cm程の墳丘状の盛土の上に建てられています。遺存状況は良好で、台石に「貞和三年(1347)一月二六日」の銘文が刻まれています。具行の死の16年後に建立されたことになります。建立者は、具行処刑の際に介錯を務めた、田児六郎左右衛門尉とされていますが、銘文自体が追刻の可能性もあり、明確な建立時期は不明です。塔全体の形式が、徳源院京極家墓所の京極道誉塔に似ているといわれています。京極家墓所にも北畠具行の宝篋印塔があります。



北畠家系図



史跡 北畠具行墓実測図



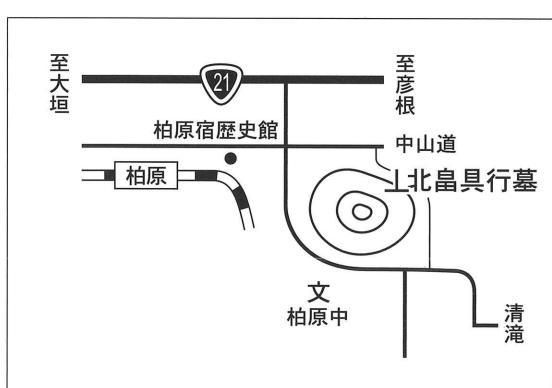
北畠具行宝篋印塔(徳源院)



峠の地蔵



京極道誉宝篋印塔  
(徳源院)



### 史跡 北畠具行墓

■ 所在地 滋賀県米原市柏原

■ アクセス JR東海道線柏原駅下車。徒歩約30分。

### 米原市教育委員会

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1050-1  
TEL.0749-55-8020 FAX.0749-55-4556

平成23年度 埋蔵文化財活用事業